

大阪ガス株式会社（9532）

2024年3月期決算

投資家・アナリスト向け説明会 プレゼンテーションスクリプト（2024年5月9日開催）

スピーカー：代表取締役社長 藤原 正隆

大阪ガスの藤原です。

本日は、お忙しいところ、当社の2024年3月期決算の説明会にご参加いただきありがとうございます。

また平素は、当社事業につきご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

それではただ今より、24年3月期決算について、お手元の資料、または当社ホームページで開示しておりますプレゼンテーション資料に沿って、説明させていただきます。

2ページをご覧ください。

決算サマリー

最初に本日のサマリーをご説明します。

- ① 24年3月期は、中期経営計画最終年度となりますが、フリーポート LNG 液化基地が運転再開し LNG 調達費用を抑えられたことや、タイムラグによる増益影響などに加え、海外エネルギー事業や LBS 事業の利益貢献も拡大し経常利益は増益となりました。
ROIC は、タイムラグ影響を除いて 6.1%となり、中期計画 2023 の目標 5%を上回りました。
- ② 25年3月期は、主にタイムラグ差益の縮小や、原料調達に伴う為替差益など前期の一時的な増益の反動により、減益を見込んでいます。
- ③ 24年3月期の配当は、中期計画 2023 の配当方針「短期的利益変動要因を除き、配当性向 30%以上」に基づき 3月7日公表の配当予想よりさらに 10円増配し、1株当たり 82.5円とします。
25年3月期の配当は、新たな配当方針「株主資本配当率 DOE3.0%」に基づき、前期より 12.5円増配し、1株当たり 95円を目指します。
- ④ また、25年3月期の上期に上限 200億円の自己株式の取得を実施します。
中期計画 2026 で掲げた ROE 目標 8%などを考慮し、自己資本の抑制により資本効率を改善していきたいと考えています。

続いて、決算数値についてご説明します。

I. 24.3期決算と25.3期見通しの概要

■P4 24.3期 決算のポイント

- 4ページは、24年3月期決算のポイントです。
- 売上高は、国内エネルギー事業において販売量の多い冬場にガス販売単価が低めに推移したことや、LNG 販売価格が下落したことなどにより、前期に比べて 1,920億円減収の 2兆 830億円となりました。
- 経常利益は、フリーポート LNG 液化基地の運転再開や、タイムラグによる増益影響に加え、海外エネルギー事業や LBS 事業の利益貢献も拡大し、前期に比べて 1,509億円増益の 2,265億円となりました。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に比べて 755億円増益の 1,326億円となりました。

■P5 24.3期決算の対前年実績比較

- 5ページでは、経常利益の前期との差異理由をセグメント別に分解して、ご説明します。
- 【国内エネルギー事業】は、フリーポート LNG 液化基地の運転再開や、タイムラグによる増益などで、1,195億円の増益となりました。

- 【海外エネルギー事業】は、米国とオーストラリアの上流事業が減益となりましたが、フリーポートLNG 液化基地の運転再開による増益や米国電力事業の増益があり、99 億円の増益となりました。
- 【ライフ&ビジネス ソリューション事業】は、都市開発事業の増益などにより、18 億円の増益となりました。
- 「その他」に記載している営業外損益で原料調達に伴う為替差益などがあり、セグメント調整額と合わせて 195 億円の増益となりました。

■ P6 24.3 期決算の対 1 月 30 日公表見通し比較

- 6 ページでは、1 月 30 日に公表した見通しとの比較をご説明します。
- 経常利益は見通しから 565 億円の増益となりました。
- 【国内エネルギー事業】は、3 月の低気温による家庭用ガス販売量の増加や、LNG 販売事業の増益などにより 272 億円の増益となりました。
- 【海外エネルギー事業】は、米国電力事業の好調や原油価格の上昇による上流事業の増益などにより 76 億円の増益となりました。
- 【ライフ&ビジネス ソリューション事業】は、情報ソリューション事業や都市開発事業の好調などにより 35 億円の増益となりました。
- また、「その他」に記載している営業外損益で原料調達に伴う為替差益などがあり、セグメント調整額と合わせて 181 億円の増益となりました。

■ P7 25.3 期 見通しのポイント

- 続いて 7 ページは 25 年 3 月期見通しのポイントです。
- 売上高は、国内エネルギー事業でのガス・LNG 販売価格の下落等により、前期に比べて 970 億円減収の 1 兆 9,860 億円となる見通しです。
- 経常利益は、主に、タイムラグ差益の縮小や、原料調達に伴う為替差益など前期の一時的な増益の反動により、前期に比べて 735 億円減益の 1,530 億円となる見通しです。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は 206 億円減益の 1,120 億円となる見通しです。

■ P8 25.3 期 見通しの対前年比較

- 8 ページでは、25 年 3 月期見通しと前期の経常利益の差異理由を、セグメント別に分解してご説明します。
- 【国内エネルギー事業】は、タイムラグ差益の縮小などで、397 億円の減益を見込んでいます。
- 【海外エネルギー事業】は、米国 IPP 案件の売却益の反動や油価下落に伴う上流事業の減益などで、71 億円の減益を見込んでいます。
- 【ライフ&ビジネス ソリューション事業】は、概ね前期並みを見込んでいます。
- また、「その他」に記載している営業外損益で原料調達に伴う為替差益などの前期の一時的な増益の反動などを見込み、セグメント調整額と合わせて 256 億円の減益を見込んでいます。

■ P9 成長投資の実績と見通し

- 9 ページは成長投資と財務健全性を示しています。
- 24 年 3 月期は、1,662 億円の成長投資を行いました。
- 【国内エネルギー事業】では発電所など、【海外エネルギー事業】では米国上流事業の開発など、【ライフ&ビジネス ソリューション事業】では都市開発事業などに対して、主に投資しました。
- 期末時点の財務健全性指標は、中期計画 2023 で示している水準「自己資本比率 50%程度、D/E 比率 0.7 程度」を確保しています。

- 25年3月期以降の目標は、中期計画2026で示した通り「自己資本比率45%以上、D/E比率0.8以下」とします。

■ P10 中期経営計画2023の振り返り

- 最後に、中期計画2023の振り返りをご説明します。
- この3年間では、フリーポートLNG液化基地の停止や、エネルギー価格の高騰などの想定外の事象もありましたが、ポートフォリオ経営が進化し、海外エネルギー事業において大きく利益成長したことに加え、国内エネルギー事業、LBS事業においても着実な成長を果たしました。
- さらに為替差益等の市況による追い風もあり、24年3月期の経営指標はROIC、D/E比率、自己資本比率ともに中期計画2023で掲げた水準を達成しました。
- またこの利益成長の成果を株主の皆さまに還元すべく、毎期増配を行い、21年3月期52.5円の配当を、24年3月期は82.5円としています。

以降は説明を割愛いたしますが、

11ページからは、24年3月期決算と前年との比較、

17ページからは、24年3月期決算と1月30日に公表した見通しとの比較、

23ページからは、25年3月期見通しと24年3月期決算との比較

を記載しておりますので、ご確認ください。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

注意事項：

本書に記載される情報は、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。